

# 火花散らし溶接の腕競う

函館 全国大会に技術者112人



火花を散らして金属を溶接する出場者たち

溶接技術日本一を争う「第62回全国溶接技術競技会北海道地区函館大会」が9日、函館市日吉町3のポリテクセンター函館で開かれた。都道府県の代表112人が出場。造船所や自動車メーカーなどで働く技術者たちが腕を競った。

日本溶接協会などの主催で函館開催は初めて。大会では溶接部分の仕上がりや強度などが審査される。出場者たちは、専用マスクで顔や目を保護しながら、電気による高熱で金属を溶かし、2枚の板を接合。火花を散らしながら慎重に作業を進めた。

道南からは、函館溶接協会の推薦を受けた函館どつ

くの船尾晟矢さん(24)＝七飯町＝と、道南産機工事の田中直樹さん(28)＝北斗市＝が出場した。

成績はエックス線検査も交えた審査を経て、12月中旬に発表される。(星野真)